

WOMAN

ウーマン クリニック

尿失禁



西野レディース
クリニック院長

西野 照代

にしもの・てるよ 昭和54年、兵庫医科大学卒。翌年より大阪回生病院、大阪大学医学部付属病院、大阪船員保険病院の勤務医を経て、平成4年より大手前病院産婦人科医長。平成17年に現クリニックを大阪市中央区に開院。

う女性ホルモンの低下による骨盤底筋のゆるみか原因と考えられています。

それに対し、切迫性尿失禁とは、それまで何ともなかったのに突然尿意を感じ、トイレが間に合わず尿がもれてしまう症状をいいます。水の音を聞いたり、トイレのことを考えただけでもおぼれてしまうこともあります。尿がもれないまでも、我慢するのが難しい症状を尿意切迫感といい、トイレの回数が多い（トイレが近い）頻尿を含め、過活動膀胱といわれるようになります。

ギュッと締めたり、尿意を感じても少し我慢をしてゆるんだ筋肉を鍛えましょう。他に薬剤を併用したり、時には外科手術を行うこともあります。

くしゃみや咳をしたり、重い荷物を持ち上げた時に尿がもれる、また突然強い尿意を感じトイレまで我慢できずに尿がもれる…。こんな症状で困ったことはありませんか？このような症状を総称して尿失禁といい、腹圧性尿失禁と切迫性尿失禁に分類されます。

切迫性尿失禁や過活動膀胱には薬剤治療が中心となりますが、骨盤底筋の体操も症状を軽減するのに有効です。

腹圧性尿失禁とは、くしゃみや咳、労作時など、腹部に力が入った時に尿がもれる症状で、40歳以上の女性の約40%にみられ、女性の尿失禁の大半を占めます。出産、加齢、閉経に伴

う原因として、脳と膀胱の筋肉を結ぶ神経の障害により、膀胱が過敏に収縮するのではないかと考えられています。

尿失禁に限らず、尿のトラブルには膀胱自体の疾患（炎症、結石、癌など）や、心理的な原因、内服している薬剤の副作用によるものもあります。

腹圧性尿失禁の治療は、骨盤底筋を鍛える体操が主で、ふたんから膣や肛門を

高齡化社会に伴い、種々の治療法や薬剤の開発も進んでいます。人に相談できずに悩んでいる方も多いと思います。「年だから仕方がない」「恥ずかしい」とひとりでは悩まず、医師にご相談ください。

で、ふたんから膣や肛門を

高齡化社会に伴い、種々の治療法や薬剤の開発も進んでいます。人に相談できずに悩んでいる方も多いと思います。「年だから仕方がない」「恥ずかしい」とひとりでは悩まず、医師にご相談ください。

高齡化社会に伴い、種々の治療法や薬剤の開発も進んでいます。人に相談できずに悩んでいる方も多いと思います。「年だから仕方がない」「恥ずかしい」とひとりでは悩まず、医師にご相談ください。